

平生町立小・中学校の将来の在り方に関するアンケート

— ご回答のお願い —

全国的に少子化が進行し、また、第2次ベビーブーム世代の増加に伴って建設された多くの施設が、一斉に老朽化し更新時期を迎えています。本町においても、少子化や学校施設の老朽化の進行は、全国と同様の状況であり、この対応は急務となっています。

こうした少子化や学校施設の老朽化の進行に係る課題への対応にあっては、教育を取り巻く動向を踏まえた「子どもたちにとって持続的で魅力ある学校教育」について考えつつ、町立学校の将来の在り方について検討をしていかなければならないと考えています。

そのため、令和6年4月には、「平生町立学校の将来の在り方検討会議(仮称)」を設置して、幅広い視点からの議論を行うことを予定しています。

本アンケートは、この検討会議の資料として活用するものです。

皆様には、ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、「平生町立学校の将来の在り方検討会議(仮称)」により、「平生町立学校の将来の在り方に係る基本構想」について、令和7年3月を目途に策定をしたいと考えており、令和6年度中の本検討会議の検討状況については、「スクールトーク(兼地域説明会)」の開催を通して共有し、意見をお聞きしたいと考えています。

令和5年12月

平生町教育委員会

ご回答・ご返送にあたって

アンケート回答は、「インターネットで回答」又は「アンケート用紙で回答」のどちらか1つをお選びください。

インターネットで回答する場合

本紙をお手元に準備し、2頁以降の説明をご覧になりながら、お手持ちのスマートフォン等から右のQRコードを読み取るか、パソコンにて下のURLからアクセスし、平生町電子申請サービスを利用してご回答ください。

アンケート回答は1回です。回答の際は、再度内容をご確認のうえ、回答を送信してください。



【URL】https://apply.e-tumo.jp/hirao-u/offer/offerList_detail?tempSeq=800

アンケート用紙で回答する場合

本紙の4頁以降のアンケートに記入し、返信用封筒を利用して、学校(園)又は町教委(役場)にお届けいただくか、各地域交流センターに設置のアンケート回収ボックスに投函いただきますようお願いいたします。

アンケート回答期限

令和6年1月26日(金)まで

【お問合せ先】 平生町教育委員会 学校教育課 TEL 0820-56-6083

参考資料(2～3ページ)をご一読のうえ、アンケート(4ページ以降)にお答えください。

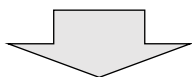
参 考 資 料

「町内小・中学校の現状等」について

【 少子化の状況 】

全国的に少子化が進む中、本町においても現在(令和 5 年度)の児童生徒数(675人)はピーク時(昭和 57 年度)の約 33.5%となっており、さらに、この傾向は、今後ますます進行していく見込みです。このような状況の中で、学校規模や配置の在り方等、少子化の進行への対応は急務となっています。

- 出生数から推計すると、佐賀小学校では、「令和7年度新入生は1人」ということも考えられ、令和10年度頃からは、完全複式の学校になると予想されます。
- 平生小学校では令和6年度から、平生中学校においても令和9年度には、各学年 2 クラス規模となる見込みです。
- 現在の児童生徒数は、ピーク時(昭和 57 年度 2019 人)の $1/3$ (令和 5 年度 675 人)になっています。10 年後までには $1/4$ に、20 年後までには $1/5$ の 400 人程度になるなど、少子化の進行が予想されます。

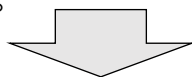


学校規模の適正化等の検討

【 学校施設の状況 】

建築年が昭和39年(築後 60 年に迫る)と最も古い平生小学校第2校舎をはじめ、平生中学校の主たる棟は、建築年が昭和45年から47年に集中しており、築後50年を経過するなど多くの施設で更新時期が迫ってきています。

- 平生小第 2 教室棟(築 58 年経過)と平生中管理特別教室棟(築 51 年経過)の健全度^{*}は、100 点満点中それぞれ 36 点と 34 点と低く、どちらも健全度が低く劣化が進んでいると評価されています。
- 平生小第 2 教室棟と平生中管理特別教室棟のコンクリート圧縮強度^{*}は、 11.5 N/mm^2 と 12.9 N/mm^2 (学校施設長寿命化計画から)であり、目安の数値より低く長寿命化には向かない建物であると評価されています。



学校施設の更新や集約等の検討

〈 ※ 健全度とコンクリート圧縮強度に係る情報 〉

- ・「建築物の耐久計画に関する考え方(社)日本建築学会」では、鉄筋コンクリート造の主要な建築物の目標耐用年数は 50 年～80 年とされています。
- ・「既存の建築物を標準で 60 年使用し、躯体の健全性調査の結果が良好な場合には、80 年使用することを目標とする」と、公共施設等の管理に関する基本的な考え方を公表している自治体があります。
- ・コンクリートの圧縮強度が低いもの(目安は 13.5 N/mm^2 以下)は、長寿命化には向いていません。(学校施設等の整備・管理に係る部局横断的な実行計画の解説書(文科省 R4.3))

【 教育を取り巻く動向 】

○ 少子高齢化や人口減少等により子供たちを取り巻く状況が変化しても、持続的で魅力ある学校教育ができるよう、下にあげた項目などを十分に考慮しつつ、学校配置や施設の維持管理、学校間の連携の在り方について検討が必要です。

- ・ 適正規模・適正配置 ・ 小中一貫教育の推進 ・ 学校を核とした地域づくり
- ・ 学び（個別最適な学びと協働的な学び、主体的・対話的で深い学び）
- ・ 新時代の学びを支える教育環境 ・ コストの最適化 等



「子どもたちにとって持続的で魅力ある学校教育の実施」を重視しつつ、「将来の町内学校施設の在り方」について、早期に検討をする必要があります。

□ 適正化の検討において考えられる大きなゴールイメージ(例)としては、

- 現状の位置に各学校継続 ● 佐賀小は閉校して平生小へ統合、平生中継続
 - 佐賀小は継続、平生小・平生中は施設一体型小中一貫教育校※として一カ所にまとめる
 - 佐賀小・平生小・平生中を施設一体型小中一貫教育校※として一カ所にまとめる
- などが考えられます。

※ 「施設一体型小中一貫教育校」というのは、小学校と中学校が同じ場所にあって、小学生も、中学生も、小学校の先生も、中学校の先生も、同じ場所で、多くの人が関わり合って、関係を深めながら、小学校1年生から中学校3年生までの9年間を一貫して教育を行う、というイメージです。

【参考：令和5年度以降の 児童・生徒数、クラス数、1学級当たり人数】

		築 60 年					新入生が一人の可能性					完全複式の可能性					築 70 年					築 50 年				
		現在											10年後													
〈小学校〉		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13	R 14	R 15	R 16	R 17	R 18	R 19	R 20	R 21								
佐賀小	児童数(人)	54	50	42	39	32	29	22																		
	クラス数(学級)	5	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3				
	1学級当たり人数	11	13	11	10	8	10	7																		
平生小	児童数(人)	386	364	360	353	348	325	305																		
	クラス数(学級)	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12				
	1学級当たり人数	30	30	30	29	29	27	25																		
a 町内児童数		440	414	402	392	380	354	327																		
b aに対する必要学級		14	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12				
a bから1学級当たり人数		31	32	31	30	29	30	27																		
〈中学校〉		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13	R 14	R 15	R 16	R 17	R 18	R 19	R 20	R 21								
平生中	生徒数(人)	227	252	232	222	193	209	212	209	181	168	159	161	147												
	クラス数(学級)	8	9	8	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6											
	1学級当たり人数	29	29	30	32	32	35	35	31	30	28	27	27	25												
全学年 2 クラス																										
全学年が 2 クラスになる可能性																										
築 60 年																										

※ 学校規模の標準については、小・中学校ともに「12 学級以上 18 学級以下」が標準とされています。(現在 1 クラスは 35 人としています)

※ 上の表の児童・生徒数は、現在の町内在住の子どもの数から記載をしています。また、クラス数は、通常の学級の数を記載しています。

次のページからのアンケートにお答えください

以下のアンケート回答所要時間:20分程度

【 あなた自身のことについてお聞きします 】

問 1 あなたの年齢について教えてください。

1つを選択

- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. 10歳代 | 2. 20歳代 | 3. 30歳代 | 4. 40歳代 |
| 5. 50歳代 | 6. 60歳代 | 7. 70歳代 | 8. 80歳以上 |

問 2 あなたは次のどれに当てはまりますか。

1つを選択

- | | | |
|------------|---------------|--------------|
| 1. 小学生 | 2. 中学生 | 3. 未就学児の保護者 |
| 4. 小学生の保護者 | 5. 中学生の保護者 | 6. 学校運営協議会委員 |
| 7. 学校の教職員 | 8. 1～6以外の平生町民 | |

問 3 あなたがお住まいの小学校区は次の「1」と「2」のどちらですか。

1つを選択

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 佐賀小学校区 | 2. 平生小学校区 |
|-----------|-----------|

問 4 小・中学生及び、学校運営協議会委員、学校の教職員以外の方にお伺いします。

近年、町内の小学校や中学校（小学生や中学生）と、どのような目的で関わりましたか。

あてはまるものをすべて選択

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 学校の行事 | 2. 子どもなどの送迎 |
| 3. PTA など保護者としての活動 | 4. 通学路の見守りやボランティア活動 |
| 5. 地域の行事や会合 | 6. かかわっていない |
| 7. その他（自由記述 | ） |

小・中学校の再編に向けた動き

全国的な傾向として、少子化の影響により児童生徒数が減少し、小・中学校の小規模化が進んでいます。このことから、教育環境を整えるため再編（学校区の見直し、学校の統合など）について検討を進めている自治体もあります。

本町においても児童生徒数の減少が進行しており、あわせて学校施設の老朽化も進んでいることから、学校規模の適正化、学校施設の更新や集約等について検討する時期に来ています。

【 小規模校と小・中学校の再編についてお聞きします 】

小規模校について

小規模校には、個別指導が行いやすいなどの利点もある一方で、集団生活に制約が生じたり、クラス替えができない、多様な考えに触れ切磋琢磨する機会が少なくなりやすいなど、児童生徒の教育環境への影響があるとされています。（本町では小規模特認校制度や遠隔合同授業などに取り組んでいます。）

問 5 小規模校の「よさ」について、あなたの考えに近い選択肢を選んでください。

1. 一人ひとりにきめ細かな指導が行いやすい
2. 意見や感想を発表できる機会が多くなる
3. 様々な活動において、一人ひとりが役割を務める機会が多くなる
4. 体験的な学習や校外学習など、学校が一体となって活動しやすい
5. 上級生・下級生間の縦の交流が生まれやすい
6. 児童生徒相互の人間関係が深まりやすい
7. 児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる
8. 教材・教具や運動場・体育館・特別教室などの施設が余裕をもって使える
9. 保護者や地域の協力が得やすく、保護者や地域と連携した効果的な指導ができる
10. わからない
11. その他(自由記述)

1～3 つまで選択

問 6 小規模校の「課題」について、あなたの考えに近い選択肢を選んでください。

1. 子ども同士が切磋琢磨する教育活動ができない
2. 習熟度別・少人数指導※ など、クラスの枠を超えた多様な指導体系がとりにくい
3. 運動会・修学旅行などの集団活動・行事の教育的効果が上がりにくい
4. 班活動やグループ分け、協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる
5. 集団内の男女比に極端な偏りが生じやすい
6. 一人の児童のクラスの与える影響が大きくなる
7. 多様な考えに触れる機会が少なくなる
8. クラス替えができないことから、人間関係が固定化しやすい
9. PTA 活動などにおける保護者の負担が大きくなりやすい
10. わからない
11. その他(自由記述)

1～3 つまで選択

※ 習熟度別・少人数指導

学習の習熟度に応じて、少人数による指導や個別指導を行う授業形態・方法のこと

町全体の学校の再編(学校施設の更新や集約)等について

国においては、小・中学校においては、集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することで、多くのことを学び、経験することが大切であることから、一定規模以上の学校規模が望ましいとしています(学校規模の標準は、小・中学校ともに「12 学級以上 18 学級以下」としています)。また、「学校教育法等の一部を改正する法律(平成 27 年)」の公布以降、小中一貫教育の制度の活用※などを通した「義務教育 9 年間の学びと育ちの連続性を重視した小中一貫教育」を推進しています。

これまで佐賀小学校にあっては、児童一人ひとりへのきめ細かな指導に加え、佐賀地域のコミュニティの核としての役割等から、小規模校のメリットを最大化した取組を進めてきましたが、児童の減少(P2.3)が今後さらに進行していくことが予想されています。

平生小学校と平生中学校にあっては、校舎建物の更新を行う時期が迫っています(P2)。また、少子化の進行に伴い、近い将来、全ての学年が 2 クラス規模の学校となることが見込まれています。

※ 小中一貫教育の制度の活用

小中一貫教育を実施することを目的とする「義務教育学校」の制度が、新たな学校の種類として平成27年に創設されています。小中一貫教育では、小・中学校が9年間を通じた教育課程を編成し、それに基づいて系統的教育を行います。問7の2や4に記載の「施設一体型小中一貫教育校」では、小学生も、中学生も、小学校の先生も、中学校の先生も、同じ場所で小学校1年から中学校3年までの9年間を一貫して教育を行う学校をイメージしてください。施設一体型では、児童生徒や教職員の移動の課題が解消し、小中一貫教育の推進が強化されるといわれています。

問7 前に記載の「町全体の学校の再編（学校施設の更新や集約）等について」から、今後、どのようにしていくことが望ましいと思いますか。

1つを選択

1. 佐賀小・平生小・平生中のそれぞれを現状の位置で継続
2. 佐賀小は現状の位置で継続、平生小・平生中は施設一体型小中一貫教育校（義務教育学校等）として現在の平生小または平生中の位置にまとめる
3. 佐賀小は閉校して平生小へ統合、平生中は現状の位置で継続
4. 佐賀小・平生小・平生中は施設一体型小中一貫教育校（義務教育学校等）として現在の平生小または平生中の位置にまとめる
5. わからない
6. その他（1～4を例に「望ましいと思われる形態」と「その理由」を記述ください

）

→ 「5」「6」を選択した方は、問12へお進みください

次の質問は、問7で「1」または「2」（佐賀小の継続）を選択した方にお聞きします

問8 問7で「1」または「2」（佐賀小の継続）を選択した理由として、あなたの考えに近い選択肢を選んでください。

1～2つまで選択

1. 学習環境の変化（きめ細かな指導ができなくなる、個々の活動の機会が減るなど）
2. 通学時間・通学方法の変化（通学距離が長くなる、通学路の安全が心配など）
3. 児童生徒への負担（新たな人間関係による心身の負担が増えるなど）
4. 伝統・地域性（地域の学校や母校がなくなる、地域の子どもは地域で育てたいなど）
5. 地域の過疎化（学校がなくなることで住居者が減るなど）
6. 地域拠点の消失（PTA活動や地域の活動、防災の拠点がなくなるなど）
7. その他（自由記述

）

→ 問7で「1」を選択した方は、問10へお進みください

→ 問7で「2」を選択した方は、問11へお進みください

次の質問は、問7で「3」または「4」（佐賀小の閉校）を選択した方にお聞きします

問9 問7で「3」または「4」（佐賀小の閉校）を選択した理由として、あなたの考えに近い選択肢を選んでください。

1～2つまで選択

1. 学習環境の変化（教職員が増える、多様な指導形態や学校運営形態の改善が図れるなど）

2. 集団活動・学校行事の充実（集団活動などの教育効果が上がるなど）
3. 人間関係の構築（クラス替えができる、多様な考えに触れることで社会性が育まれるなど）
4. 学校施設・設備の整備・充実（教育予算の集中投資が可能になるなど）
5. PTA 活動などの環境改善（活動の充実が図れる、保護者の負担が軽減されるなど）
6. 少子化のためやむを得ない
7. その他（自由記述

)

→ 問 7 で「3」を選択した方は、問 10 へお進みください
 → 問 7 で「4」を選択した方は、問 11 へお進みください

次の質問は、問 7 で「1」または「3」（施設一体型小中一貫教育校（義務教育学校等）は設置する必要はない）を選択した方にお聞きします

問 10 問 7 で「1」または「3」（施設一体型小中一貫教育校（義務教育学校等）は設置する必要はない）を選択した理由として、あなたの考えに近い選択肢を選んでください。

1～3 つまで選択

1. 小学校段階と中学校段階は明確に区別するべきである
2. 小中連携は進んでおり、小学 6 年生児童が中学校へ入学する際の不安はあまりない
3. 小中一貫教育の推進（対応する子どもの年齢層の広がりや多様な対応等）は教員の忙しさに拍車をかける
4. PTA や学校運営協議会等の新たな大きな組織の設置は、地域連携の停滞につながる
5. その他（自由記述

)

→ 問 12 へお進みください

次の質問は、問 7 で「2」または「4」（施設一体型小中一貫教育校（義務教育学校等）の設置をする）を選択した方にお聞きします

問 11 問 7 で「2」または「4」（施設一体型小中一貫教育校（義務教育学校等）を設置する）を選択した理由として、あなたの考えに近い選択肢を選んでください。

1～3 つまで選択

1. 小学校時点の児童生徒の学習指導や生徒指導上の課題が中学校と十分に共有できる
2. 中学校へ入学する前の小学 6 年生児童の不安が解消できる
3. 中学校専科教員の授業を小学生が受講できる
4. 児童生徒一人当たりに投入できる教員のマンパワーが増加する
5. 小中学校の教員間の交流により、教員の授業改善や指導方法の改善につながる
6. 小・中が連携した教育活動（集団活動・学校行事など）が活発になる
7. 小学生と中学生の交流が進む（中学生による小学生への学習指導など）
8. PTA や学校運営協議会等を新たに組織することで、町全体の地域連携強化につながる
9. その他（自由記述

)

→ 問 12 へお進みください

問 12 学校の再編（学校施設の更新や集約）について検討する場合には、どのような点に配慮すべきと思いますか。

1～3 つまで選択

1. 児童生徒にとっての教育環境への対応（人間関係づくり、心身の負担軽減）
2. 通学の方法等と安全確保に関する対応
3. 学校施設・設備（ICT や理科・英語教育推進のための施設、学校図書等）の整備・充実
4. 特別支援教育の推進や、カウンセリングの充実
5. 義務教育 9 年間を見通した小中一貫教育の実施
6. 家庭・地域との連携・協働の強化
7. 地域の拠点機能（地域交流拠点、文化・スポーツ活動拠点、防災拠点など）
8. 施設の複合化（社会教育施設や福祉施設など、様々な機能を有する施設と一体的に整備）
9. 学校再編で学校が空き施設になった場合の有効活用策
10. 保護者・地域住民との十分な協議
11. その他（自由記述）

【 今後の学校教育についてお聞きます 】

問 13 今後の学校教育に期待する教育効果（力を入れてほしいこと・取り組んでほしいこと）について教えてください。

1～3 つまで選択

1. 基礎的・基本的な学力を確実に身に付けられるようにすること
2. 自ら学ぶ態度や責任をもって実行できる力を育てること
3. 義務教育 9 年間を見通した系統性、連続性のある教育を行うこと
4. 道徳教育・情操教育を充実させ、豊かな心を育むこと
5. スポーツを通して心身を鍛え、体力の向上を図ること
6. 保健・安全指導を充実させ、健康で安全な生活が営めるようにすること
7. 人権を尊重した差別のない人間関係を築くこと
8. 基本的な生活習慣を身に付けられるようにすること
9. 情報を適切かつ効果的に活用する能力を育成すること
10. 学校図書館の整備を進め、読書活動の充実を図ること
11. 地域の課題に関心をもち、地域を大切にすることを育てること
12. 英語教育を充実させるとともに、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めること
13. いじめの未然防止や不登校の予防等に努めること
14. その他（自由記述）

問 14 平生町立学校の将来の在り方について、ご意見があればお書きください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。